

トラス首相の「成長計画」はなぜ失敗したか

田 近 栄 治

イギリス経済の再生を公約に掲げたリズ・トラス氏が首相に就任したのは、二〇二二年九月六日であった。その後、エリザベス女王の国葬を経て、政権の目玉である「成長計画」をクワーテング財務大臣が発表したのは九月二三日である。発表と同時に市場が混乱し、国債、通貨と株価のトリプル安となり、一〇月一四日に財務大臣更迭。そして、トラス首相も一〇月二〇日に辞任に追い込まれた。

長期にわたる停滞とブレグジットによる混乱から、イギリス経済に成長を取り戻そうというトラ

ス首相とクワーテング財務大臣の意気込みは、若さに溢れ、思わず頑張れと声をかけたくなるものだ。しかし、それがなぜ、こんなにもあつげなく失墜してしまったのか。その原因を探り、財政政策と金融政策がそれぞれの役割を果たすことの重要性を指摘したい。

トラス首相の成長計画

成長計画発表の前夜、トラス首相は国連総会の場で、その思いを次のように語っている。「イギ

リスの首相として、私は国民が求める成長を実現することを決意しました。私は新時代の新しいイギリスの先頭に立ちます。まず成し遂げたいことは、経済を成長させることによって、企業活動が報われ、活発な投資が行われるようにすることです。

長期的な目標は、平均して毎年二・五%の成長を実現することです。この成長によって、私たちはイギリス全土で投資が行われ、人々の望む仕事や高い報酬が実現され、国民医療サービスなど公共サービスが提供されることを目指します。また、国民にはより多くの報酬を自由に使えるようにし、自らの手で生活を設計できるように努めます。」

その目玉が減税を通じたサプライサイドからの改革であった。具体的には、二五%への引上げを予定されていた法人税の税率をもとの一九%に戻

すこと、所得税の最低税率と最高税率の引下げ、配当課税やフリーランス課税の強化を白紙に戻すことを主張した。そのなかでも、法人税増税計画の撤回が改革の要であった。減税総額はほぼ四五〇億ポンド（七・五兆円程度）で、トラス首相、クワートニング財務大臣としては、限られた財源で、成長第一に考えた政策であったのかもしれない。

財政政策の失敗

しかし、市場の反応は、手厳しいものであった。その最も重要な原因は、クワートニング財務大臣が、政府は財政責任を果たすとしていたにも関わらず、第三者機関である財政責任庁による経済・財政見通しを一月に予定していた中期財政計画まで先送りにしたことである。これを引き金として、財政の先行きへの不安が高まり、大幅な

トリプル安となった。

それから先は、混乱が増幅した。債券価格の下落は、年金基金の財政悪化に飛び火した。その結果、債券価格はさらに下落し、それを食い止めるために、イギリスの中央銀行であるイングランド銀行が、緊急の債券買入れに追い込まれた。

トラス首相、クワレーティング財務大臣としては、財源にも配慮していると言いたるところだったかもしれない。しかし、その裏付けを計画と同時に示さなかったことは、大失敗であった。また、そもそも二桁のインフレが進行し、大規模減税を行うことに国の内外から強い不信があるなかで、減税策から始めることへの準備がなかった。

市場の予想外の反応というには、つたない政権運営であった。法人税減税が成長戦略の要であるなら、そこに焦点をあて、限られた予算の範囲で、最大限の効果をあげる改革を示すべきであった。

た。また、インフレ下の低所得者保護のような、どうしても守らなければならぬ支出については、増税かその他歳出のカットかの選択を国民に問うべきであった。

金融政策の失敗

金融政策はその責任を果たしていただろうか。九月二二日にイギリス銀行は、政策金利を一・七五％から二・二五％に引上げている。その後政策金利は、今回の混乱後、一月三日に〇・七五％引上げられ、三％となった。

インフレ下の政策金利引上げに遅れはなかったのか。この点については、政策当局のイン格蘭ド銀行のチーフエコノミストであるヒュー・ピル氏が、最近になって政策金利引上げの遅れを認め、その結果、インフレが昂進したと発言してい

る（フィナンシャルタイムズ紙、一月九日付）。

その背景の一つとして、イギリスにおいて、政策金利の引上げが、住宅ローン金利に反映されやすいことも指摘されている。そのため、イングランド銀行としても、政策金利の引上げには、慎重にならざるを得なかったのかもしれない。

こうした見方が正しいとすれば、火事の原因となる低金利の枯葉を敷いたのはイングランド銀行で、それに火をつけた財政は、放火の濡れ衣を着せられたのだということになる（ウォールストリート社説、一〇月一四日付）。さらに興味深いのは、政策金利の引上げの遅れを指摘しているヒュー・ピル氏自身、現在の三％からの先の金利引上げの必要性を問われ、二の足を踏んだ発言をしている。

大切なこと

イギリスの「成長計画」の失敗からわかったことは、財政政策と金融政策がそれぞれの役割を果たすことの重要性だ。トラス首相とクワターテング財務大臣の成長に寄せる思いは理解できるが、裏付けとなる財源の見通しを示すことが不可欠だ。そうでなければ、二・五％の経済成長を担保にして、四五〇億ポンドの借金をするのと同じだ。

金融政策はどうか。コロナ禍を経て、目前の問題がインフレ対策であるなら、金融政策の役割はその火消しである。早めの対策が必要だったことは言うまでもない。

このように見てくると、イギリスの「成長計画」の失敗の真因は、財政政策と金融政策ともにそれぞれの役割を果たしていなかったことだ。こ

トラス首相の「成長計画」はなぜ失敗したか

れを前向きに言い換えれば、政府のなすべきことは、財政政策、金融政策にそれぞれの役割をしっかりと担わせつつ、国民にビジョンを示し、その実現を図ることだ。

トラス首相とクワレーテング財務大臣が成長計画に掲げた諸政策、そのなかでもとくに「一九％の法人税」は、これからのイギリスにとって命運を分かつものであったかもしれない。それだけに、財政政策と金融政策全体を踏まえた、政策提案がされなかったことが残念である。

(たちか えいじ・一橋大学名誉教授)